

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月10日現在

機関番号：62608

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720082

研究課題名（和文）密教的世界観を基盤とする和歌会・和歌伝授資料の総合的調査とその基盤的研究

研究課題名（英文）Basic research on the documents for Japanese poems written through the worldview of esoteric Buddhism

研究代表者

海野 圭介（UNNO KEISUKE）

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：80346155

研究成果の概要（和文）：

密教的世界観に基づく思想や儀礼を知的基盤として著された和歌の伝授と和歌会に関するテキストの調査と比較検討を行い、併せて、それらテキストの日本中世から近世の古典学における価値や意義について報告を行った。具体的には、古今伝受に関わる座敷図と古層の切紙類の伝本調査と比較検討、和歌会の作法や次第を記した古層のテキスト類の伝本調査と比較検討を行い、それらのテキストの生成する思想的基盤や享受史上の特質等について分析を行った。

研究成果の概要（英文）：

We weighed on the documents for transmission of waka poetry knowledge and ceremony of waka poetry party written through the worldview of esoteric Buddhism, and we reported on value and significance in the history of ideas in medieval and early modern Japan. Specifically, we surveyed, philologically, pictorial diagrams for ceremony of transmission of waka poetry knowledge, documents for transmission of waka poetry knowledge, and documents for ceremony of waka poetry party, and we analyzed these characteristics and these knowledge bases.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：中世文学

1. 研究開始当初の背景

鎌倉時代中・後期頃には、和歌の表現を磨くための理念的な論書（いわゆる「歌論書」とともに、和歌会の運営や和歌の伝授を行うための種々の実用的な書物が著されるようになる。具体的には、おびただしき遺例が伝わる和歌会設営のための作法・故実書（『和歌会次第』の類）や和歌を書写するための作法・故実書（『懐紙書様』の類）、和歌灌頂と称された和歌の秘伝の伝授に関わる作法書と伝書、及びその座の設営に関わる作法書やその図様・図像が伝わっており、また、和歌会に掲げる本尊（人丸や住吉明神の神影）の有り様を説く伝書（『玉伝神秘巻』の類）のような例もまた、和歌会や和歌の伝授に不可欠な、その座の構成要素を伝える伝書と言える。

和歌会の運営や和歌の伝授を行うための種々の実用的な書物（伝書・作法書）の類については、中世中・後期に行われた和歌をめぐる活動の実際を伝える遺品として、近年とみに注目が集まってきているが、これらのうちのかなりのものが、密教的世界観に立脚しつつ和歌を詠み、伝える営みを説明する。鎌倉～室町期（場合によっては江戸期にも）においては、和歌会を行うのにも「本尊」（住吉大明神や柿本人丸）が必要とされ、また詠み出される和歌を守護する神仏が觀念されるなど、神仏と和歌は極めて近い関係にあり、和歌会を成り立たせるために記された諸伝書が当時の神仏觀念の一般的理解であった習合的密教觀念（神仏習合的な理念と発想）を基盤として、神仏に庇護される会席や伝授の座の有り様を思い描くのは至極当然のことといえる。

川平ひとし「文台と本尊のある場―和歌会次第書類点綴」（中世文学 38 1993）は、中世的和歌の営みと神仏の位置関係を理念的

に描き出し、総体としての中世和歌とその生成する空間に対する理解の地平を大きく広げたが、その後、関連史料が具体的に発掘され、学術的検討に付されることはなかったといえる。ようやく、廣木一人・松本麻子・山本啓介編『文芸会席作法書集』（風間書房 2008）により、中世期の『和歌会次第』の類の資料調査と学術的検討がはじめられたが、この重要な成果においても、その目的が会席の復元に向けられ、伝書自体を構成する論理のあり方に対するアプローチ（その伝書を支えた思想や発想の探求）はほとんど進められていない。

本研究では、中世において行われた和歌会の設営や和歌の書き方といった、和歌をめぐる具体的な作法を記す伝書と図像資料の総合的調査と検討を通して、中世的和歌の座の有り方の具体例に迫り、そうした和歌の座の設営を推し進めた思想的背景としての密教的世界観をもって綴られる伝書の分析、及びテキストの相互比較を行い、事後の研究における基盤的テキストの構築を目指した。

2. 研究の目的

本研究では、中世において行われた和歌会の設営や和歌の書き方といった、和歌をめぐる具体的な作法を記す伝書と図像資料の総合的調査と検討を通して、中世的和歌の座の有り方の具体例に迫り、そうした和歌の座の設営を推し進めた思想的背景としての密教的世界観をもって綴られる伝書の分析、及びテキストの相互比較を行った。和歌会の設営と和歌の書法を伝える諸伝書は、同時期の和歌の歴史の一側面を伝える資料であるのみならず、思想史の文献としても貴重である。近年急激に解明の進んだ密教側の資料（中世説話資料や聖教などの寺院資料）研究の成果を相対化するためにも、整理・検討とその活用

が待たれるが、ようやくにテキストの発掘とその基本的理解としての意義の探求が始まったばかりであり、記載された内容については依然未検討の部分を多く残す。本研究は、下記の項目の検討により、密教的世界観に立脚した中世の和歌の空間、和歌の座（歌会や伝授の座等）の実態の解明と、そうした場を構成する諸書の論理構造や思想的背景の把握を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、主として下記の3点の項目に即して伝存テキストの調査と記載内容の相互比較と検討を行った。

(1)作法書『竹園抄』、伝授書『古今灌頂』をはじめとする密教的世界観を発想の基盤として著された和歌会作法書・和歌伝授書古写本の検討

(2)『古今和歌集藤沢伝』をはじめとする、中世寺院に伝来した歌会・和歌伝授関連資料の検討

(3)「古今伝授座敷模様」等の歌会・和歌伝授関連の図像資料の整理・検討

上記(1)については、国文学研究資料館、東京大学史料編纂所等の既存のデータベースに掲載される資料と情報をベースに、良質なテキストを所有する尊敬閣文庫等の文庫や個人所蔵者所蔵の原典テキストの調査（一部複写を用いた）を行い、テキストの比較検討を行った。

(2)については、中世期以来の原典資料を伝来する中世寺院（天野山金剛寺、藤沢山清浄光寺等）所蔵の原典テキスト（一部複写資料を用いた）の調査を行い、記載内容の比較検討を試みた。

(3)については、永青文庫、正宗文庫、宮内庁書陵部、東山御文庫等に伝来する古今伝授を初めとする和歌に関する儀礼の座を描く

図像資料を総合的に調査し、相互比較を行うとともに、画像データの集積と今後の基盤となる資料集積の構築を図った。

4. 研究成果

本研究は、関連資料の原典及び複写資料の総合的調査とその分析に基づく資料学的研究とその史的評価に関する研究の2段階で構想されている。

前者の資料学的課題については、歌会作法書『竹園抄』、歌道伝授書『古今灌頂』、和歌伝授に関する図像資料（座敷図等）に加えて、歌学伝授に際し授受された切紙類（和歌伝授の際の秘伝を記した資料）のうち、密教的世界観に基づき著された諸資料を相対化する意味でも興味深い資料といえる中世神道に関わる知見に基づき作成された切紙類についても範囲を拡大して概括的な調査と比較検討を行った。

資料個々の収集とそれらの比較検討を経て見いだされた注目に値する成果については口頭報告と成文化による報告を行った。具体的には、次項「主な発表論文等」、[雑誌論文]記載の③、⑤、⑧において、歌道伝授資料の構成に関わる整理を行い、主として資料（群）の伝来に関わる事象とその社会的機能に関する事柄について報告を行った。

後者の史的評価に関しては、資料の調査と検討に基づく情報や知見の整理を行い、日本中世～近世の古典学（『古今集』のみならず『伊勢物語』『源氏物語』『和漢朗詠集』といった古典を対象とし、その知的基盤に仏教・神道・儒学等を置く学問）の歴史の中における価値や意義、及びその具体例や方法等につき報告を行った。具体的には、次項「主な発表論文等」、[雑誌論文]記載の①、②、④、⑥、⑦、⑨においては、関連資料個々の記載内容の記載内容の詳細な読み解きを試みた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

①海野圭介, 始発期の三条西家古典学と実隆—『実隆公記』に見える『古今和歌集』の講釈と伝授を中心に—, 前田雅之編『中世の学芸と古典注釈』(竹林舎), 査読無, 2011, pp.110-129

②海野圭介, 古今伝受の室内—君臣和楽の象徴空間, 錦仁 阿部泰郎編『聖なる声 和歌にひそむ力』(三弥井書店), 査読無, 2011, pp.179-204

③海野圭介, 吉田神道と古今伝受—『八雲神詠伝』の相伝を中心に—, 伊藤聡編『中世神話と神祇・神道世界』(竹林舎), 査読無, 2011, pp.439-463

④海野圭介, 堂上の諸抄集成—京都大学附属図書館蔵中院文庫本『古今和歌集注』の紹介を兼ねて, 鈴木健一編『江戸の「知」 近世注釈の世界』(森話社), 査読無, 2010, pp.105-128

⑤海野圭介, 細川幽齋と古今伝受, 森正人 鈴木元編『細川幽齋 戦塵の中の学芸』(笠間書院), 査読無, 2010, pp.110-128

⑥海野圭介, 海人の刈る藻に住む虫の寓意—『当流切紙二十四通』所収「一虫」「虫之口伝」をめぐって—, 山本登朗編『伊勢物語 享受の展開』(竹林舎), 査読無, 2010, pp.91-118

⑦海野圭介, 古今伝受切紙と口伝—後水尾院による切紙の読み解きをめぐって—, 武蔵野文学(武蔵野書院) 57, 査読無, 2009, pp.6-11

⑧海野圭介, 確立期の御所伝受と和歌の家—幽齋相伝の典籍・文書類の伝領と禁裏古今伝受資料の作成をめぐって—, 大阪大学古代中世文学研究会編『皇統迭立と文学形成』(和

泉書院), 査読無, 2009, pp.323-354

⑨海野圭介, 『幽玄に読みなす物語—『肖聞抄』における『伊勢物語』の読み解きをめぐって—』, ジョシュア・モストウ 山本登朗編『伊勢物語 創造と変容』(和泉書院), 査読無, 2009, pp.179-205

[学会発表] (計 2 件)

① Keisuke Unno, Reading Genji ethically: traditional values, Confucian discourse, and the Tale of Genji, The 13th EAJS International Conference of EAJS, Aug. 26, 2011, Tallinn University, Tallinn, Estonia, The European Association for Japanese Studies (EAJS)

② Keisuke Unno, *Narihira and his Lover's Heart: Allegory of "The Secret Teaching of an Insect"*, Annual Conference 2010, Mar. 27, 2010, Philadelphia Marriott Downtown, Association for Asian Studies (AAS)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

海野 圭介 (UNNO KEISUKE)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号 : 80346155

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし